

〈令和 7 年度・ゆとりあ まとめ〉

1) はじめに

内閣府の統計（令和 7 年度）を参考にすると精神障害者の数は現在国内で推定 603 万人となり、身体障害者や知的障害者に次いで多い。また、精神障害者施設は、入所者の地域移行を支援することが求められている反面、入所者の高齢化や重度化も進み、医療との連携が必要とされている。そのため精神障害者施設のあり方や期待される機能については多岐にわたり、就労はもちろん生活介護としての役割も強化しなければならない。

ゆとりあにおいても障害の程度にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、教育が包括的に確保された「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の充実を引き続き目指し現場対応を行った。

令和 7 年度、ゆとりあは定員 20 名に対し 47 名の契約者が在籍した一日当たりの利用者の平均は年間 22.7 人となり昨年の 20.1 人から比較すると 2.6 人増となり出勤率が向上した。月別においても昨年は年間を通し 7 か月間が 90% 台だったが今年は 1 度も 100% を下回ることにはなかった。結果、支援費収入は増額となり例年に比べ経営的には安定した状況を保つこととなった。要因として利用者の健康状態が安定していたことも結果の一つではあるが、昨年出勤率の低下状況を改善するため新規利用者の受け入れや実習を積極的に行い、利用者の工賃向上はもちろん、個々のニーズにきめ細かく適切な支援を高め、利用者にとって魅力ある活動内容の充実及び、体制強化や環境整備に対し危機感をもって取り組んだ成果と言える。菓子製造は着実に効果を表し日々利用者が積極的に関わり販売数も安定している。花工房においても母の日やクリスマスなど季節限定の商品や切り花の定期販売を関係者を中心に行った。

利用者の楽しみの一つ、貴重な社会経験を学ぶ場であった余暇支援については今年度より外出や外食を含め土曜日出勤の活動に取り入れ、多くの利用者が地域資源を利用し楽しみや潤いを感じながら過ごすことが出来た。

昨年に続き精神に障害のある人のサービス利用は引き続き増加傾向にあり、発達障害による個別支援が必要な利用者、薬物依存の相談や支援を必要とする利用者、利用者の家族も含め生活の基盤等包括的に支援が必要なケースも多いことから今後さらに職員間の連携や意思疎通を強化し、同時に保健・医療の関係機関や専門職との連携や専門的な研修等に参加するなど専門性を高めなければならない。

主たる利用者については引き続き精神障害者を中心とした就労継続支援 B 型（定員 20 名）として運営を行った。利用者の多くは障害の特性により安定した出勤による施設利用が困難なケースが多く、個々のニーズの多様化により施設としての専門性の向上はもち

ろん医療を中心とした他機関との連携強化、目的や課題別による班編成、個別支援等、体制を整え支援度の高いケースに対しても臨機応変に随時対応の強化を図った。

定期的な面談はもちろん必要に応じて適時モニタリングを行い、それぞれの思いやケースに柔軟、且つ迅速に支援することで利用者が心身ともに安定し、地域の中で生きがいや目標を持って通所に繋がっている。

今後も利用者一人ひとりの個別支援を強化し安定した施設運営を図りたい。

2) 施設財政

利用者の通所率が昨年と比較して 13%増となり今年度、利用率は 113.5%となった。(昨年 100.5%) 事業活動収入においては 54,698,169 円(6 年 48,872,005 円)となり昨年より 5,826,164 円が増額となった。今年度をベースに今後も安定した収入を維持しなければならず、利用率の向上は必須となり年平均 123%を目標に強化を図る。最終的に事業活動資金収支差額は 5,961,935 円(6 年 1,573,877 円)となった。体制については一部増員を行い 1 年を通し安定した職員体制が確保できた。その結果、人件費支出は増加傾向にあるがこれは常勤職員の定期昇給や非常勤職員等の雇用形態の改善によるものである。事務費支出、事業費支出については環境整備や備品整備により増減が見られるがいずれも必要最小限にとどめている。今後も利用契約者数を常時 45 名～50 名、一日平均利用 23 名～25 名を目指し地域の限られた資源である精神障害者施設として積極的な受け入れを図り健全な経営に努めたい。

科目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
人件費支出	34,875,429 円	35,890,684 円	37,018,056 円
事務費支出	6,994,241 円	7,219,898 円	6,916,173 円
事業費支出	3,257,238 円	3,404,166 円	3,944,985 円
支払利息支出	61,013 円	80,490 円	105,422 円
その他の支出	628,357 円	702,890 円	751,598 円
事業活動収入計	47,121,261 円	48,872,005 円	54,698,169 円
事業活動資金収支差額	1,304,983 円	1,573,877 円	5,961,935 円

3) 利用状況

今年度も随時利用希望者の受け入れを行ってきた。1年を通して9名の見学者があり、6名の方が実習され2名が入所となった。A型事業所へのステップアップや利用目的の変更など6名の方が退所された。令和8年3月末時点で契約者47名（男性24名、女性23名）となっている。

今年新規入所者は実家から通所の方が1名、援護寮入所者が1名となった。過去に就労経験がある方や水口病院デイケアで週5日の通所練習を経て次のステップとして入所された方となった。長期的な目標として将来は障がい者雇用やA型事業所利用を意識した入所となっている。

高齢の方の割合が増えていく中、サービスの変更が必要な方が1名おられた。送迎利用についても増加傾向にあるため、利用者の特性や送迎ルートについては利用者間の個人情報に配慮しながら、出来る限り対応できるよう努力している。また、自宅前まで送迎が必要な方については順番や配車を調整し対応してきた。

今年度も通所日が祝日などにあたる場合は振替通所を提案していた為、振替通所を常時される利用者の方もおられ、関係機関に連絡調整し柔軟に通所利用していただけた。

図1) 一日平均（人）

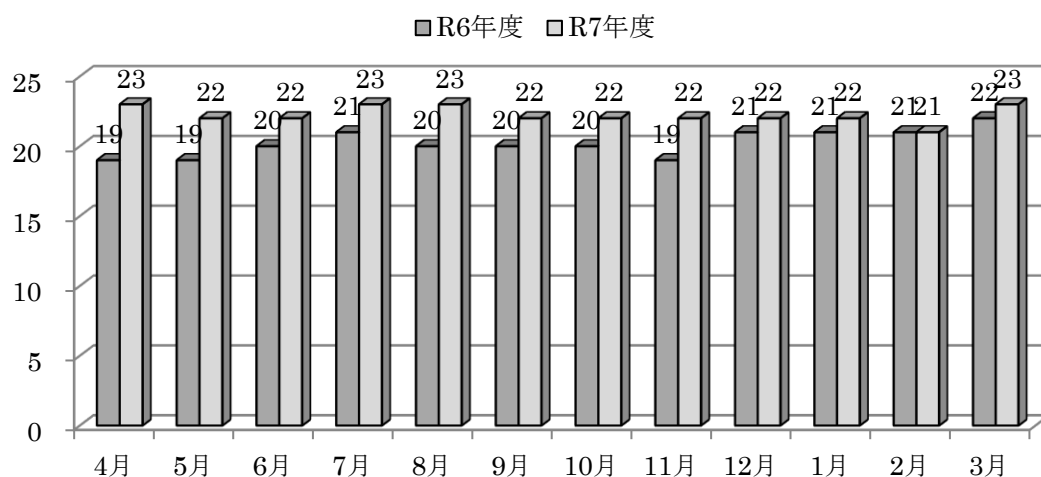


図1では昨年に比べ平均は上がった。利用頻度は医療や支援者の方と相談した上で決めておられるため、生活リズムや服薬など体調の安定を優先した利用となっている。そのため週1回の通所の方から週5回の通所の方まで様々である。

図 2) 利用目的別契約者数 (人)

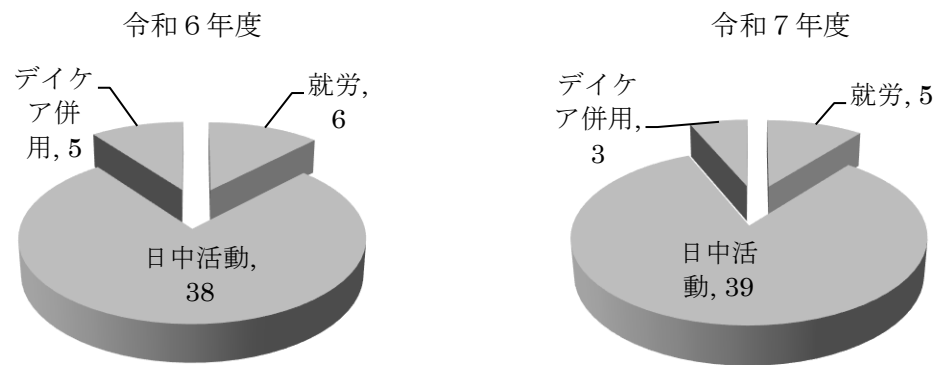


図 2 では年間を通して入所や退所がある中、概ね同じ数字となった。

図 3) 年代別男女 (人)

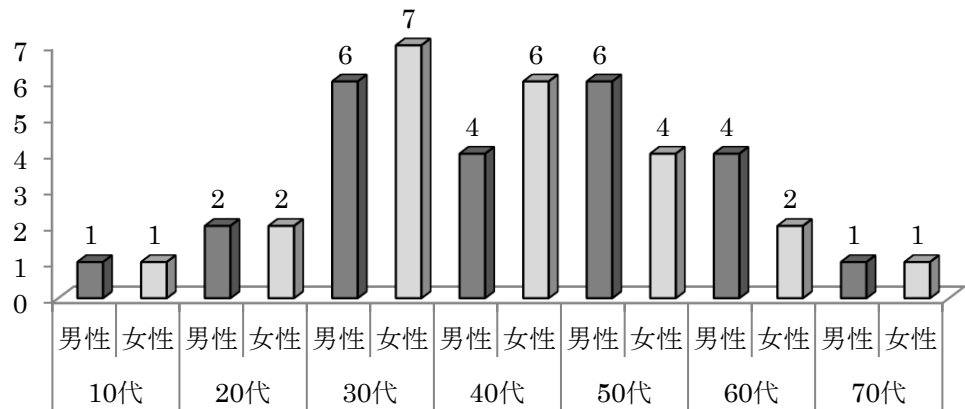


図 3 では年齢幅は 19 歳～ 74 歳で平均年齢は 44 歳となった。昨年に比べ 2 歳増加した。

図 4) 地域別利用者数 (人)

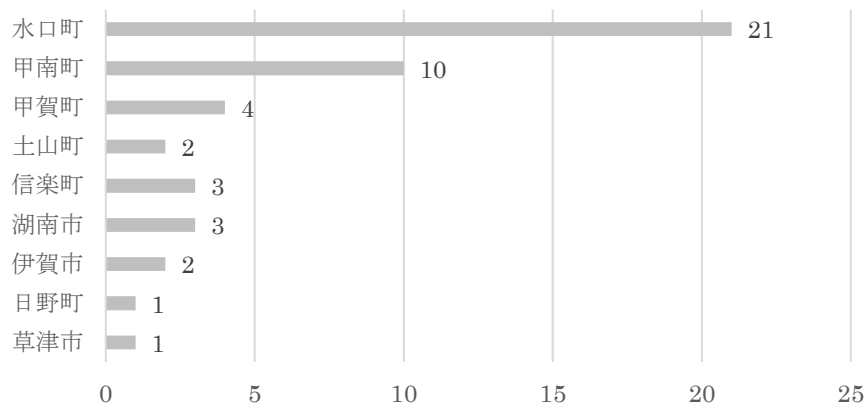


図 4 精神のグループホームが水口に 4 ヲ所あることや、援護寮からの通所者が増えたことで水口町からの利用者が増えている。

図 5) 住環境 (人)

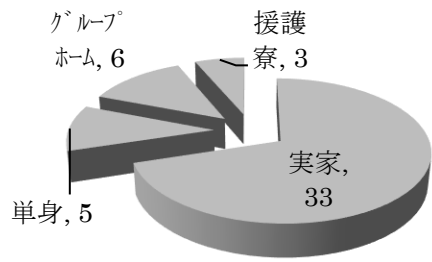


図 6) 送迎利用者 (人)

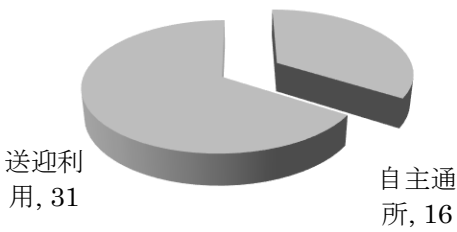


図 5 では今年度の入所者は、実家 2 名、援護寮（生活訓練施設） 2 名となった。

図 6 では全体で 6 6 %の方が送迎を利用されており、自主通所の方が 3 4 %となった。昨年 に比べ自主通所の方が増加した。

入退所状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入 所	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
退 所	0	1	0	0	1	0	0	2	1	1	0	0

図 7) 入所前状況 (人)

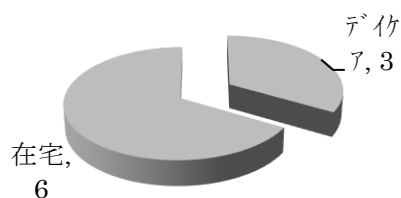


図 8) 障害程度区分 (人)

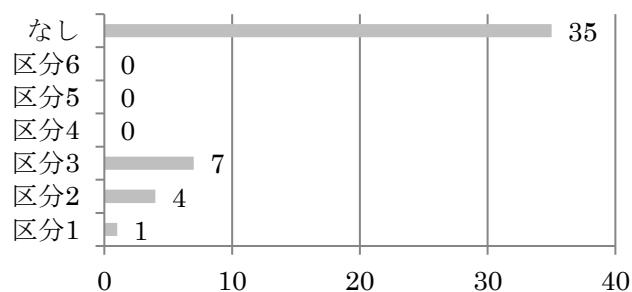


図 7 では今年度も今はまずは生活リズムや体調を整えること。長期的な目標として将来は就労を目指すことを目的とする方であった。

図 8 では就労継続支援 B 型事業所のみの利用で申請されている場合、区分判定はない。グループホームや宿泊型自立訓練事業所、訪問看護など生活面のサービスを利用する場合は区分が出る。

図 9) 見学者紹介機関 (人)

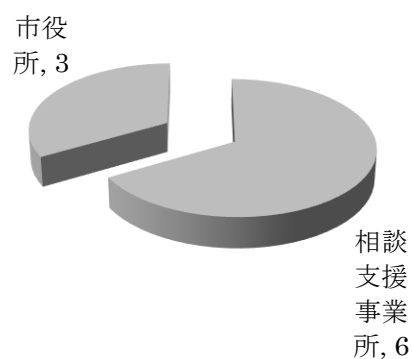


図 10) 診断名別状況 (人)

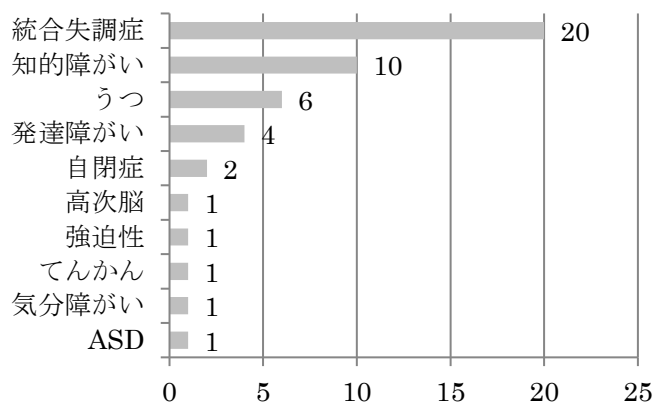


図 9 では見学者 9 名中 6 名が実習を行い 2 名が入所へとつながった。

図 10 では重複しておられる方は主の疾患をカウントした。精神障害の方が主の施設であることから統合失調症の方が多い。重複についてはうつの方が多い。

4) 生産活動

今年度の生産活動収入額は 9,953,884 円、支出額は 9,816,272 円で 137,612 円の利益となった。その内訳項目としては①菓子販売②自動車部品③物資販売④組み立て作業⑤箱折り作業⑥花苗販売⑦施設外就労となる。菓子製造においては工程の細分化をし、利用者の方々の得意な事・ストレングスを活かし取り組んでおり、菓子製造を目指して入所希望される方も徐々に増加してきた。令和 7 年度収入額は 4,077,941 円、純利益 2,780,072 円となりやまなみ工房見学者への店頭販売、土山道の駅や花野果市等の委託販売、物資販売の受注により収入アップにつながった。また、R8 年 2 月より甲賀市役所にて月一回の訪問販売を行うこととなった。

花苗販売の令和 7 年度収入額は 1,161,455 円で純利益 203,875 円であった。主な販売実績は切り花や仏花等の定期販売、フラワーギフト、店頭及び出張販売であるが、現状は仕入れ販売が中心となっており利益は全体の 4%となっている。利益率のアップに向け自家栽培の花苗の育苗に取り組み、利用者の方々が取り組めるようカリキュラム設定を行った。年間スケジュールを作成し種まき、フラワーギフト販売や定期販売を計画立てて進めていった。

利用者の方々には夏季賞与 1.3 万円、冬季賞与 1.0 万円、期末賞与満額 1.0 万円を支給することが出来た。その結果、今年度の平均工賃額は 17,253 円となった。

精神障がい者は疾患と障がいの両面を持っておられるため、今後も作業療法の要素と体調面の維持を組み合わせながら継続した病状の安定が図れるよう、生産活動の向上に努めていかなければならない。

表 1) 年度別平均工賃額（単位：円）

	5 年度実績	6 年度実績	7 年度実績
工賃支払総額	4,159,340	4,166,504	4,699,867
利用者延べ人数	5,444	4,761	5,600
平均工賃月額	15,684	17,274	17,253

※平均工賃月額算出方法の変更

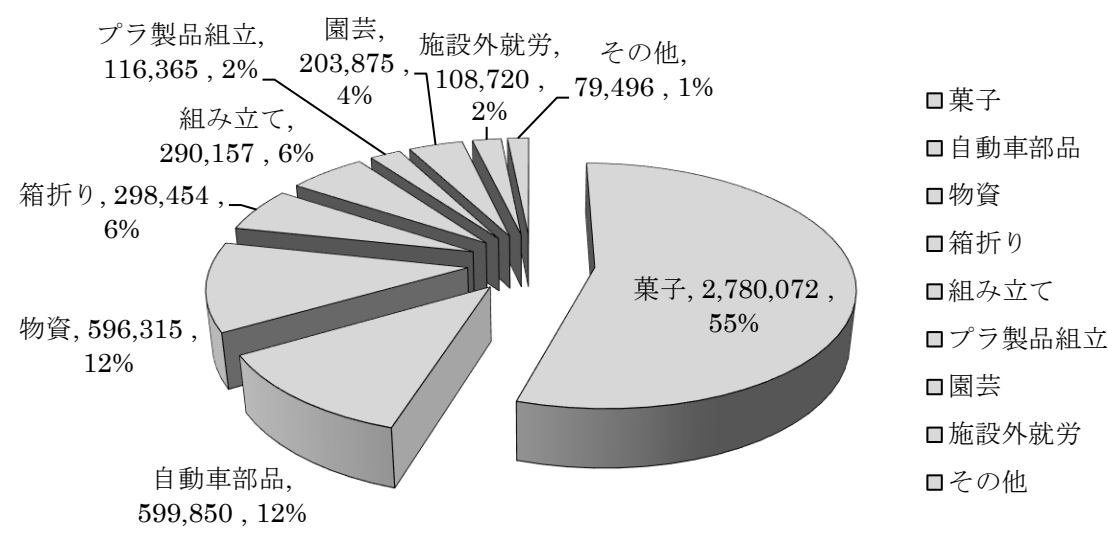
令和 5 年～ 工賃支払総額 ÷ (利用者延べ人数 ÷ 年間開所日数) ÷ 12 月

表 2) 項目別収入到達額 (単位：円)

	菓子	物資	園芸	自動車 部品	組立 作業	箱折り	プラ製品 組立	施設外 就労	その他	合計
目標額	4,472,000	2,900,000	1,672,000	688,000	221,000	340,000	130,000	96,000	193,000	10,712,000
収入額	4,077,941	3,122,089	1,161,455	599,850	290,157	298,454	116,365	108,720	178,853	9,953,884

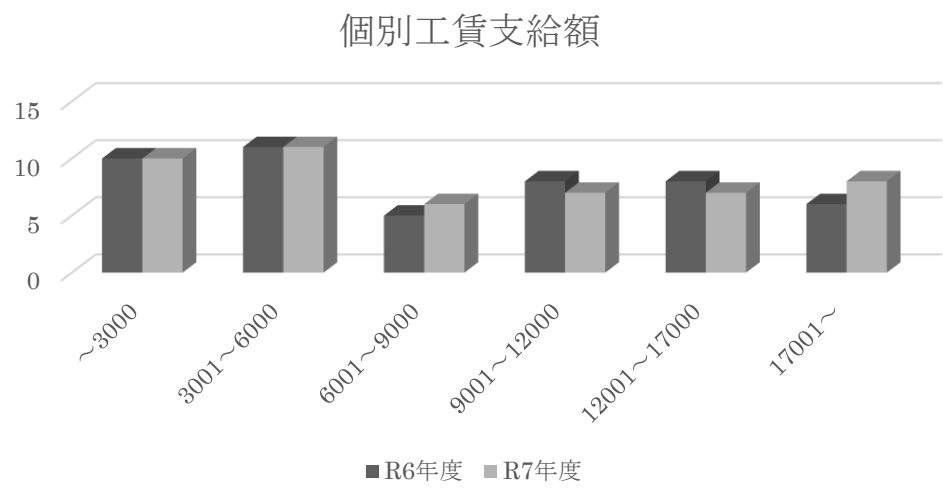
利用者の皆様に夏季・冬季賞与、期末手当の支給を行った。

図 11) 項目別利益表



上記グラフでは全体利益の 79%を菓子販売、自動車部品や物資販売が占めており、重要な生産活動項目となっている。

図 12) 月平均工賃額 (単位：円)



利用日数では在籍のみ 4 名、週一 3 名、週二 11 名、週三 10 名、週四 3 名、週五 16 名となっている。

※個々によって在籍期間が異なります

令和 7 年度 利用者工賃規定

工賃	入所時、3 年未満の方は時給 180 円とし、入所から 3 年以上の方は入所月より時給 200 円とします。
支給日	工賃の締め切りは月の初日から月末とし、毎月 20 日に支給します。
給食代	昼食を利用した人は、1 食 250 円×回数を工賃から引きます。 工賃から引けない場合は請求します。
賞与	賞与は年 2 回、8 月と 12 月に支給します。ただし、基準日（8/1, 12/1）以前 6 ヶ月の通所率が、25%未満は支給の 3 割、25%以上 50%未満は支給の 5 割、50%以上は満額支給となります。 ※12～5 月の 6 ヶ月 6～11 月の 6 ヶ月
期末手当	期末手当はその年度の利益に応じて 3 月に支給します。 ただし、基準日（3/1）以前 12 か月の通所率が上記の%に準じて支給します。※3～翌 2 月の 12 か月

5) 社会参加・地域交流事業

今年度においても施設外就労の清掃作業（甲賀保健センターでの作業）、利用者の方々と共に物資仕分け・配達や花苗・菓子販売に取り組んだ。甲賀圏域を中心に各関係機関や企業などに物資販売（年3回）の広告やゆとりあニュース・やまなみ会通信を配布し取り組みの趣旨を利用者の方々と伝えるとともに、地域の皆様にゆとりあの取り組みや精神疾患を持っておられる方々の理解を深められる機会となった。

ゆとりあの取り組みをより知って頂けるよう本年も地区のマルシェの参加や、企業・事業所への菓子等の出張販売に取り組んだ。本年度は『KOHANAN 忍にんスポーツクラブ出店』（3/21 甲南体育館前・甲南町葛木）、『甲賀 WAIWAI フェスティバル』（11/9 甲賀市まちづくり活動センターまる一む・水口町水口）、『万博レガシー共創フェスタ』（11/9 滋賀県立陶芸の森・信楽町勅旨）、『こうなんだいいちメルカート』（11/22 甲南駅北側ロータリー・甲南町深川）へ参加した。また『わた SIGA 輝く国スポ・障スポ』（10/25 水口スポーツの森・水口町北内貴）では利用者の方々と一緒に来場者の方へおふるまいとしてゆとりあのお菓子をお渡し、全国からの来場者と接することで、喜びややりがいにつながった。

今年度も『IROTUYA マルシェ』（10/5 やまなみ工房・ゆとりあ敷地内）を開催した。開催に向けて利用者の方々と共に地域の飲食店や商店等に出向き、ちらしの配布やポスター掲示に取り組み、当日は5名の利用者がそれぞれ菓子・花苗の販売を担当した。お客様と商品のやりとりを直接行い、多くのお声を頂くことが出来、日々のやりがいに繋げることが出来た。ゆとりあの取り組みを知って頂く機会となった。

ネイルサロンではネイリストの方に定期的に来所していただき、お互いに会話を楽しみコミュニケーションを図れる場として取り組んだ。（R7.8月、R7.12月、R8.3月ネイルサロン開催）普段よりおしゃれに、また心癒される機会を持つことで日常生活をより豊かに感じてもらえるよう取り組めた行事であった。

花工房では高齢者グループホームより花苗の注文を受けて植え付け作業に取り組んでおり、入所されている方々とコミュニケーションを取りながら喜んでもらえることで花を育てることへの楽しみややりがいにもつながっている。

6) 関係機関との連携

相談支援事業所を中心としたチーム支援を今年度も引き続き継続してきた。継続でセルフプランを利用されている方については、更新月には面談を行い市役所への更新手続きを進めてきた。また、医療との連携については、利用者の体調の変化に注意し、不穏な状態や心身の変化などに対応し連絡を行ってきた。

個別調整会議については、日中を避け 15:30 以降で調整をお願いしてきた。概ね夕方か

らの開催となったことは日中活動をスムーズに運営でき良かった。

見学対応については、精神疾患を主とした利用者の方や三雲養護学校の卒業生を主に受け入れを行ってきた。

A 型事業所へのステップアップを希望された利用者の方については、相談支援所に結び今年度は2名の方が移行された。高齢化によりライフステージが変化してきている方については、環境の変化に注意し慎重に他機関ともケース会議を行い検討してきた。日中活動の様子を行政やグループホームへも連絡し早めの対応対策を行ってきた。

本年度も水口病院から病棟看護師や作業療法士、地域連携室を対象に「B 型事業所研修・ゆとりあの取組について」を年間2回も選んで頂いたことで、利用者の方の一日の流れや実際に作業されている所を見学され、デイケア利用時とは違う利用者の表情や雰囲気を確認された事は、今後のチーム支援での共通項としての判断材料やこれから B 型事業所を目指すデイケア利用者の方の支援を考えた時にイメージしやすくステップアップを考える際に役立てる事が出来ることに繋がった。

7) 職員状況・職員連携

現在の職員数は管理者（やまなみ工房と兼務）1名、サービス管理責任者1名、事務1名、生活支援員3名、職業指導員2名、調理員1名の計9名の組織体制である。班体制についてはサンダー・ストライクス Room（本館）には職員3名、レイズド・オン・メディア Room（別館）に職員2名、菓子工房に職員2名を配置し利用者の支援を行った。（令和7年7月には、菓子工房に職員1名増員）

月2回定例で行っている職員会議ではサービス管理責任者が作成したカレンダーを基に行事・業務予定を作成、職員への配布、周知し全体共有を行っている。菓子製造や園芸作業が授産の柱であることから、利用者の工賃アップに繋げていくよう販売促進となるアイデアを検討・議論する場として取り組んでいる。また、職員会議の前週には事前会議を行い、状況把握に努めている。各作業グループ内での連携として担当職員内で、作業内容や利用者の近況を共有し、より良い支援に繋がれるよう取り組んでいる。

令和6年4月より義務付けられた業務継続計画を作成し、自然災害発生時・感染症発生時における推進委員を立ち上げた。法人会議では定例報告を行い職員周知に努めている。令和8年2月にはやまなみ工房・ゆとりあにおいて業務継続計画研修を全職員対象に行った。研修を通じて職員個々で振り返りを行い、「業務継続計画とはどういったものか」という基礎的な部分の共有が出来、今後の対応について、対策を深めていく。

8) 今後の課題と事業展開

甲賀市の精神障害者保健福祉手帳所持者数は、年々増加傾向にあり、手帳を所持していない人を含めると精神障害者の就労支援の必要性は益々高まる傾向にある。ゆとりあは今後も主たる利用者を精神障害者とし、知的障害者や発達障害者の受け入れも積極的に行う。引き続き地域の中で利用者が活躍できるよう、就労に向けた訓練及び社会復帰に向けた様々な取組と魅力ある実践の充実向上を図り、個々の利用ニーズに基づき利用者一人ひとりが「ゆとりあ」を利用することで、自立に向け日々安定した状況で豊かに健康で過ごせる事を目指したい。